



いつまでもお元気で!!



■東部地区町会別75歳以上人口

平成26.7.1現在

町会名	男性	女性	合計
清水東	71	113	184
清水中	30	40	70
清水西	14	24	38
片端町	18	28	46
出居番町	5	11	16
東町1丁目	12	15	27
東町2丁目	6	18	24
東町3丁目	10	14	24
鍛冶町	6	6	12
餌差町	10	24	34
桜町	29	36	65
下横田町	19	34	53
南上横田町	4	24	28
葎町	6	14	20
合計	240	401	641

9月15日は敬老の日です。敬老の日は、昭和40年に「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」という趣旨により国民の祝日に定められました。今年も各町会では、長年の社会貢献への感謝の意を込めて、長寿のお祝いや敬老会が行われました。こうした機会を通じて地区の高齢者福祉への関心が高まっていくことに期待したいものです。東部地区の高齢化状況は次の表のとおりです。

■東部地区高齢化状況

平成26.7.1現在

地区名	総人口(A)	65歳以上人口(B)	高齢化率(B/A)
松本市	242,366	62,469	25.77%
東部地区	3,343	1,128	33.74%

年齢別の内訳は、75～79歳が203名、80歳代が371名、90歳以上が67名です。



福祉ひろばのふれあい健康教室

医療救護所が設置されると、開業医は救護所へ、病院は救護所からの搬送患者の受け入れのため訪れても処置が出来ないので注意するよう説明がありました。

9月7日(日)に清水中学校において医療救護訓練が行われました。医療救護所は震度6弱以上の地震が起こると市内23か所に開設されます。大規模の災害でけが人等が出た場合、近くの医療救護所へ搬送します。傷病の重症度別にトリアージ(選別)が行われ治療の優先順位が決められ、軽症者は応急処置、重傷者は指定病院へ搬送される仕組みになっています。訓練には、医療救護所を担当する医師、薬剤師、市職員等と今年初めて地区住民が参加して行われました。トリアージ訓練では、住民5名がけが人役になり、医師が歩行の可否、呼吸の有無、けがの状況等により、選別が行われ、治療順に黒赤黄緑のタグが右手首につけられました。



重傷者のトリアージ訓練

参加者は初めて目にするトリアージに関心が高く、実際に体験することにより災害時の医療救急のしくみが理解できたと思います。また、参加者から「災害時に救護所まで搬送が可能か」「搬送が不可能な重症者はどうするのか」「災害時に殺到するけが人にどう対応できるのか」「この仕組みをどのようにして広く周知していくのか」等の意見があり、今回の訓練での課題もありました。災害時には多くのけが人の対応が間に合わないこともありえます。家庭や地域で救急用品を備えたり、応急手当の方法を身につけておくことも大切です。

救える命を救うために!!
災害時医療救護活動から学び

女鳥羽川の大氾濫から「今」を見つめる 〜地区の歴史を教訓として〜

8月9日、東部公民館文化委員会主催により「第1回東部地区まちづくり講座」が開催されました。

タイムトラベルと題された今回は、住民から集めた地区内で撮影された古い写真の撮影ポイントを順に訪ねていくというもので、参加者は今と昔の風景を見比べながら地区の歴史や変遷等について学習をしました。

女鳥羽川周辺では、昭和34年の大洪水の写真も披露されました。当時川面からの堤防の高さは1.5mほどしかありませんでしたので、2日間の総雨量133.6ミリ、推定水量およそ200m³/秒とい



昭和34年8月大洪水時の鍛冶町

う規模で来襲した台風7号に對しては余りにも脆弱で、警戒水位を2.3倍も越えて大氾濫を起こし、中心街は泥海と化してしまいました。

その氾濫に対する河川改修工事は災害救助法が適用されて昭和40年に完了しました。また、現在大橋〜桜橋間でおこなわれている改修工事では80年に一度の大雨時の水量と想定される250m³/秒にも耐えうるように設計されており、桜橋や源橋等はその水位より更に80cm高くなっています。

しかし、近年はゲリラ豪雨と呼ばれる予測困難な局地的豪雨がしばしば見られ、日本各地に大変悲惨な爪痕を残しているのも事実です。

女鳥羽川の近くに住む私たちとしては、少しでもこうした被害を最小限にとどめたいために、川の流れの妨げとなる繁茂した雑草や雑木を刈ったり、川のゴミを清掃したりする等して、他人任せではなく自分たちでできる範囲の活動を今後も継続していくことが大切だと思います。

新連載「わたしの思い出シリーズ」 「少年の日の思い出」丸山忠造(東町3丁目)

旅籠の街として歴史あるこの辺りは連隊との関わりや、また蘭蔵があつた蘭の街としても栄えました。映画館、飲食店の土土町、歓楽のうら街を近くに控えて終夜まで賑わっており、その様子は戦中を除き戦後30年代後半頃まで続いたように思います。

昭和5年生まれの私は小学生の頃、ここに整列して出征兵士を見送り、遺骨の出迎えをたびたびしました。

その頃の子供達の行事と言えば青山様、三九郎やお祭りに舞台に乗ること等で、ピー玉にメンコや戦争ごっこ、時には天守閣の広場へは野球、遠くは城山、玄向寺の沢蟹採りと出掛けて遊ぶ毎日でした。

太平洋戦争の始まる頃までは、朝な夕なに検番から三味



東町3丁目の町誌
左は大正10年、右は平成12年発行

線、太鼓の音が聞え、私には子守唄と同じでした。半玉から一人前の芸妓になるための礼儀作法、舞踊の稽古をし、読み書き等の塾もあり、正行寺小路ではその姿をよく見かけましたが、その芸妓達も昭和19年頃には軍需工場へ動員されたようです。

当時の正行寺小路は2間中位で、南側にはカフェ、酒場、置家、食堂が並んでいました。昭和20年、軍の建物疎開により強制的に壊されて現在のようになりました。終戦の翌日16日にも兵隊が柱を引き倒しているのが目に焼きついていています。

連隊の演習や行事等の都合でしようか、町内に兵隊のための宿舎割当があり、何人かが分宿した所が町誌に残っています。また、冬の夜中に兵隊が駅に向かって行く靴音をフトンの中で聞いたことがあります。この隊は南方海上で輸送船が沈められ多くの犠牲者が出たそうです。

警防団、国防婦人会等の組織があり、父は防火訓練、夜間の燈火管制、金属の回収等を先頭に立って頑張っていました。各家庭には小さいながら

らも防空壕があり、前の家の屋上には防空監視塔もあり、バケツリレーの訓練等、それこそ町内こぞつての戦時体制でした。物資は何もかも配給制で、年寄り、学童で疎開した人もいました。

東部地区ソフトバレー・卓球大会

東部地区体育協会主催の「ソフトバレー・卓球大会」が9月7日に開催されました。

試合結果	
3位	清水西
2位	東町2
1位	東町1
ソフトバレー	卓球
清水中混合	川勝さん
裏さん	飯沼さん



熱戦のソフトバレー
於：清水中学校体育館